

ユネスコ事業への協力：ユネスコ地球規模の課題の解決のための 科学事業信託基金拠出金

附属資料2

令和5年度予算額 42百万円
(前年度予算額 41百万円)

背景・課題

- これまでのアジア太平洋地域への信託基金の拠出を通じ、小島嶼開発途上国（SIDS）を含む域内加盟国における科学的知見に基づく政策形成・立案能力の向上、科学技術力の格差解消、SDGsの達成に貢献。
- 特にアジア太平洋地域の科学分野において共同研究や国際会議を日本が主導することで、日本人研究者の国際的な活躍の場の提供、域内における次世代の研究者の親日派の育成、客観的な科学的知見に基づく国際世論の形成に寄与。
- コロナ過からの回復途上における人的交流の活発化に伴い、より人材育成やネットワーキング強化の効果の高い、対面開催での会議や研修に対するニーズが向上。
- 世界的なニーズを踏まえた、我が国の強みを生かした切れ目のない支援を実施することが、国際社会における我が国の科学技術分野での主導的役割の維持に不可欠。

事業内容

ユネスコ科学事業を通じた協力プロジェクト

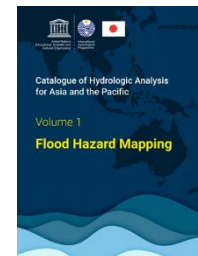
ユネスコ科学関係主要分野（水害、生物多様性、海洋学等）における各プロジェクトについて、ユネスコジャカルタ事務所及びユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）に対して信託基金を拠出し協力事業を実施（平成19年～）。

コロナ過においては、オンラインでの研修や啓発動画及び出版物の作成を中心にプロジェクトを実施してきたところ、人的交流が再開しつつあるタイミングで、日本人の若手研究者の研究成果の発信やネットワーク構築に寄与し、各国の人材育成等により高い効果の見込まれる対面での会議やトレーニングを実施するため、各プロジェクトを充実させる。

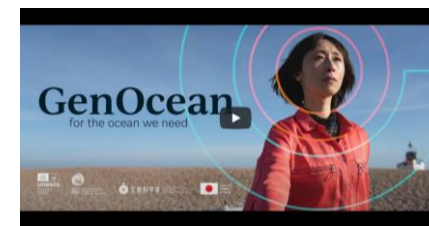
【プロジェクト例】

- 科学事業間連携のパイロットプロジェクトの実施支援
- 河川データを基にした防災対策事例集・ガイドラインの作成
- 生物圏保存地域や水文学研究者による地域会合の開催
- 海洋汚染に関する研修の実施や啓発動画等の作成

これまでの成果物を活かしながら、対面開催の会議やトレーニングを強化し、人材育成やネットワーク構築に更なる貢献を図る



【水害に関する事例集】



【海洋に関する啓発動画】



【アジア太平洋地域でのウェビナー】